

臨床検査医学講座 (検査部・輸血部を含む)

著 書

- 1 青木洋介：イレウスで緊急入院し，絶食および輸液管理で経過観察中に発熱を認めた68歳男性．山口恵三：Infectious diseases. 第4版 260-266. 日本医事新報社. 東京 2006.
- 2 青木洋介：敗血症．山口恵三：Infectious diseases. 第4版 292-299. 日本医事新報社. 東京 2006.
- 3 青木洋介，福岡麻美：呼吸器感染症—気道感染症．渡辺 彰：抗菌薬臨床ハンドブック．初版 152-159. ヴァンメディカル. 東京 2006.
- 4 福岡麻美，青木洋介：知っておきたい抗菌薬関連の基礎知識．MBCとは．渡辺 彰：抗菌薬臨床ハンドブック．初版 289. ヴァンメディカル. 東京 2006.
- 5 福岡麻美，青木洋介：知っておきたい抗菌薬関連の基礎知識．MPCとは．渡辺 彰：抗菌薬臨床ハンドブック．初版 289. ヴァンメディカル. 東京 2006.
- 6 福岡麻美，青木洋介：知っておきたい抗菌薬関連の基礎知識．ブレイクポイントとは．渡辺 彰：抗菌薬臨床ハンドブック．初版 289-290. ヴァンメディカル. 東京 2006.
- 7 福岡麻美，青木洋介：知っておきたい抗菌薬関連の基礎知識．感受性成績の読み方．渡辺 彰：抗菌薬臨床ハンドブック．初版290. ヴァンメディカル. 東京 2006.
- 8 °Goda C, Kanaji T, Kanaji S, Tanaka G, Arima K, Ohno S, Izuhara K: Involvement of IL-32 in activation-induced cell death in T cells. Inn Immunol. 18: 233-240, 2006.
- 9 Izuhara K, Arima K, Kanaji S, Masumoto K, Kanaji T: Immunogenomics and Human Diseases (Application of microarray technology to bronchial asthma). John Wiley & Sons, Ltd. 407-418, 2006.
- 10 永沢善三：薬剤感受性試験（ディスク法・希釈法）．奥住捷子，小栗豊子編：インフェクションコントロール．秋季増刊 178-180，メディカ出版．大阪 2006.
- 11 永沢善三：TDM（ピーク値・トラフ値）．奥住捷子，小栗豊子編：インフェクションコントロール．秋季増刊 178-180，メディカ出版．大阪 2006.
- 12 永沢善三：最小発育阻止濃度（MIC），最小殺菌濃度（MBC）．奥住捷子，小栗豊子編：インフェクションコントロール．秋季増刊 181，メディカ出版．大阪 2006.

学術論文

- 1 青木洋介：レジオネラ感染症の臨床疫学的診断方の開発に関する研究—特に集団感染事例を対象とした解析．厚生労働科学研究費補助金・健康科学総合研究事業—生活環境におけるレジオネラ感染予防に関する研究—．平成17年度総括・分担研究報告書．2006，3，. 35-36.
- 2 青木洋介：レジオネラ感染症の臨床疫学的診断方の開発に関する研究—特に集団感染事例の医療トリアージ法の開発—．厚生労働科学研究費補助金・健康科学総合研究事業—生活環境におけるレジオネラ感染予防に関する研究—．平成15年度—17年度統合研究報告書．2006，3，53-59.
- 3 青木洋介：Community-acquired/associated MRSA. 感染症 5：22-26, 2006.
- 4 青木洋介：血清クレアチニンについて．医界佐賀—臨床検査一口メモ．987：35-36, 2006.
- 5 青木洋介：細菌培養—各種検体の取り扱い—．医界佐賀—臨床検査一口メモ．988：39-40, 2006.

- 6 青木洋介： γ -GTP について。医界佐賀—臨床検査—口メモ。989：45-46, 2006.
- 7 青木洋介：検査結果に及ぼす運動の影響。医界佐賀—臨床検査—口メモ。990：53, 2006.
- 8 青木洋介：血清総タンパク，および A/G 比。医界佐賀—臨床検査—口メモ。991：57, 2006.
- 9 青木洋介：BNP—脳性ナトリウム利尿ペプチド。医界佐賀—臨床検査—口メモ。992：35-36, 2006.
- 10 青木洋介：針刺しが起きた場合の対応。医界佐賀—臨床検査—口メモ。993：38-39, 2006.
- 11 青木洋介：咬傷の抗菌薬治療。医界佐賀—臨床検査—口メモ。994：30-31, 2006.
- 12 青木洋介：結核の新しい検査“クオンティフェロン”。医界佐賀—臨床検査—口メモ。995：30-31, 2006.
- 13 青木洋介：医療機関における日常の感染対策。医界佐賀—臨床検査—口メモ。996：34-35, 2006.
- 14 青木洋介：抗菌薬アレルギーについて。医界佐賀—臨床検査—口メモ。997：43-44, 2006.
- 15 青木洋介：急性胃腸炎と診断する場合のピットフォール。医界佐賀—臨床検査—口メモ。998：42-43, 2006.
- 16 青木洋介：ラジオ短波アボット感染症アワー「感染症専門医とコンサルテーション」収録2006，3，3.
- 17 青木洋介：NHK 佐賀テレビ「風邪とインフルエンザ」放送2006，1，25.
- 18 青木洋介，福岡麻美：ビブリオ・ブルニフィカス重症感染症の臨床病態。化学療法の領域 22：365-371, 2006.
- 19 青木洋介，福岡麻美：超重症肺炎の治療戦略。医薬ジャーナル 42：109-114, 2006.
- 20 青木洋介，福岡麻美，三原由起子，永沢善三，草場耕二：知っておきたい院内で要注意の耐性菌。医薬ジャーナル 42：2529-2535, 2006.
- 21 青木洋介，福岡麻美，三原由起子，永沢善三，草場耕二：日常における耐性菌抑制—アウトブレイクを未然に防ぐために2。知っておきたい院内で要注意の耐性菌。医薬ジャーナル 42：2529-2535, 2006.
- 22 °Fukushima N, Satoh Y, Sueoka N, Sato A, Ide M, Hisatomi T, Kuwahara N, Tomimasu R, Tsuneyoshi N, Funai N, Sano M, Tokunaga O, Sueoka E: Clinico-pathological characteristics of p63 expression in B-cell lymphoma. *Cancer Sci.* 97: 1050-5, 2006.
- 23 出原賢治：花粉症のアレルギー疾患における特殊性と共通性。臨床検査 50：221-224, 2006.
- 24 出原賢治：アレルギー疾患の診断マーカー—マイクロアレイ法による新規診断マーカーの探索 I—扁平上皮細胞癌抗原の診断マーカーとしての意義—。臨床病理 54：738-743, 2006.
- 25 出原賢治：環境とアレルギー：免疫アレルギーの基礎の立場から。日本補完代替医療学会誌 3：37-42, 2006.
- 26 Izuhara K, Arima K, Kanaji S, Ohta S, Kanaji T: IL-13: A promising therapeutic target for bronchial asthma. *Current Medicinal Chemistry* 13: 2291-2298, 2006.
- 27 Izuhara K, Saito H: Microarray-based identification of novel biomarkers in asthma. *Allergy Int.* 4: 361-367, 2006.
- 28 °Kitagawa N, Oda M, I N, Satoh H, Totoki T, Morimoto M: A proposed mechanism for amitriptyline neurotoxicity based on its detergent nature. *Toxicology and Applied Pharmacology.* 217：100-106, 2006.

- 29 °Koike E, Toda S, Yokoi F, Izuhara K, Koike N, Itoh K, Miyazaki K, Sugihara H: Expression of new human inorganic pyrophosphatase in thyroid diseases: Its intimate association with hyperthyroidism. *Biochem Biophys Res. Co.* 341: 687-692, 2006.
- 30 永沢善三, 青木洋介, 出原賢治: 院内感染予防のためのトータルシステム. *日本臨床検査自動化学会誌* 31: 153-161, 2006.
- 31 °Nakamura T, Hayashi S, Fukuoka M, Sueoka N, Nagasawa K. Pulmonary infarction as the initial manifestation of Takayasu's arteritis. *Intern. Med.*45: 725-728, 2006.
- 32 °Nishi N, Miyazaki M, Tsuji K, Hitomi T, Muro E, Zaito M, Yamamoto S, Inada S, Kobayashi I, Ichimaru T, Izuhara K, Nagumo F, Yuyama N, Hamasaki Y: Squamous cell carcinoma-related antigen in children with acute asthma. *Annals of Allergy, Asthma & Immunology* 94: 391-397, 2005.
- 33 *大城知子, 佐藤清治, 三原由紀子, 高柳 恵, 青木洋介, 永山在明: 一般・消化器外科病棟における緑膿菌による交差感染の検討. *環境感染学雑誌* 21: 24-29, 2006.
- 34 *大隈雅紀, 池田 勇, 永沢善三, 小野友道: *Nocardia brasilliensis* による限局型皮膚ノカルジア症—レボフロキサシンの効果が示唆された1例—. *日本臨床微生物学雑誌* 13: 145-150, 2006.
- 35 °高山 剛, 有馬和彦, 金地泰典, 出原賢治, 戸田修二, 田中宏幸, 永井博弌: 新規細胞外マトリックスタンパク質である periostin を介した IL-4/IL-13 による気管支喘息における基底膜肥厚. *呼吸* 25: S23-S24, 2006.
- 36 °Takayama G, Arima K, Kanaji T, Toda S, Tanaka H, Shoji S, McKenzie AN J, Nagai H, Hotokebuchi T, Izuhara K: Periostin: A novel component of subepithelial fibrosis of bronchial asthma downstream of IL-4 and IL-13 signals. *J Allergy Clin. Immunol.* 118: 98-104, 2006.

学会発表

- 1 Aoki Y: Problem-based Learning: A Six-years' experience in Saga Medical School. PBL Workshop. John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii, Honolulu. 2006, 1, 19. (Luncheon seminar).
- 2 青木洋介: 呼吸器研修の評価—Feedback と Evaluation. 第56回日本呼吸器学会九州地方会春季大会. 2006, 4, 8. プログラム講演抄録 24-25. (シンポジウム: 良い呼吸器科医師を育てるのに何が必要か)
- 3 青木洋介: わが国の感染症診療および専門医教育の課題—医育機関臨床医からの提言. 第76回日本感染症学会西日本地方会総会. 2006, 11, 23. プログラム講演抄録: 53. (西日本感染症・化学療法学会合同シンポジウム: 感染症専門医の育成と将来)
- 4 青木洋介: 市中 MRSA 感染症—Update in Skin Infection. 第58回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 2006, 11, 11. プログラム抄録集: 52-53. (教育講演)
- 5 青木洋介, 福岡麻美: 抗菌薬適性使用. 平成18年度国立大学病院感染対策協議会 ICN ブロック別講習会 (九州・沖縄地区). 2006, 7, 6.
- 6 青木洋介, 宮本比呂志, 福岡麻美, 江崎孝行, 吉田眞一: 温泉施設におけるレジオネラ属菌への集団曝露事例の医療トリアージに関する臨床疫学的検討. 第80回日本感染症学会総会. 2006, 4, 20. *感染症学雑誌* 80: 199.
- 7 青木洋介, 福岡麻美, 高柳 恵, 草場耕二, 永沢善三: 佐賀大学病院における院内分離グラム陰性

- 菌の薬剤感受性—抗菌薬使用規制前の検討. 第54回日本化学療法学会総会. 2006, 5, 18. 日本化学療法学会雑誌54:99.
- 8 青木洋介:肺炎球菌ワクチンについて. 宮崎県医師会学術講演会. 2006, 6, 16. (特別講演)
 - 9 青木洋介:院内感染の原因となりやすい微生物の知識と対応. 鹿児島県滅菌業務研究会. 2006, 7, 1. (特別講演)
 - 10 青木洋介:院内感染防止策および職業感染曝露防止策. 佐賀県医師会医療安全対策医療従事者研修会. 2006, 8, 31. (教育講演)
 - 11 福岡麻美:ICTによる診療科横断型の介入効果—佐賀大学医学部附属病院における感染症コンサルテーションの現状と菌血症の予後の改善. 第17回日本臨床微生物学会総会. 2006, 1, 29. 日本臨床微生物学会誌15:62 (シンポジウム)
 - 12 福岡麻美, 青木洋介, 林真一郎, 長澤浩平, 永沢善三, 草場耕二, 高柳 恵:当院におけるノカルジア感染症16症例の臨床的検討. 第80回日本感染症学会. 2006, 4, 17. 感染症学雑誌 80:770.
 - 13 福岡麻美:佐賀大学医学部附属病院における感染症コンサルテーションの現状と菌血症の予後の改善. 第7回長野県院内感染対策研究会. 2006, 5, 20. (特別講演)
 - 14 福岡麻美:佐賀大学医学部附属病院における横断的な感染症診療への介入とその効果. 第1回栃木県感染症ケースカンファランス. 2006, 5, 27. (特別講演)
 - 15 福岡麻美, 青木洋介, 永沢善三, 三原由紀子:佐賀大学医学部附属病院における感染症診療コンサルテーションの現状とICNに期待すること. 平成18年度国立大学病院感染対策協議会 ICN ブロック別講習会 (九州・沖縄地区). 2006, 7, 6.
 - 16 °福島伯泰, 佐藤敏美, 末岡尚子, 佐藤明美, 久富 崇, 出 勝, 桑原伸夫, 冨栴りか, 常吉直子, 船井典子, 今井一枝, 末岡榮三朗: B細胞性リンパ腫における p63 と bcl-6 の発現の相関と臨床病理学的特徴. 第65回日本癌学会学術総会. 2006, 9, 28. 日本癌学会学術総会記事:140.
 - 17 °福島伯泰, 佐藤敏美, 末岡尚子, 佐藤明美, 久富 崇, 出 勝, 桑原伸夫, 冨栴りか, 常吉直子, 船井典子, 今井一枝, 末岡榮三朗: B細胞性リンパ腫における p63 の臨床病理学的検討. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会. 2006, 10, 6-8. 臨床血液 47:262.
 - 18 井上博晴, 福岡麻美, 青木洋介, 梅口仁美, 長澤浩平, 永沢善三, 草場耕二, 高柳 恵:急激な経過で発症したリステリア髄膜炎の1例. 第76回日本感染症学会西日本地方会総会. 2006, 11, 23. プログラム抄録集81.
 - 19 Izuhara K: A search for novel bronchial asthma-related genes by microarray approach. A joint meeting of 2nd basic and clinical immunogenomics and 3rd immunoinformatics conferences (Budapest). 2006.
 - 20 出原賢治, 金地佐千子, 金地泰典, 太田昭一郎, 鈴木久美子, 井之口昭:オーダーメイド医療を目指したアレルギー疾患診断の確立. 第53回日本臨床検査医学会学術集会. 2006.
 - 21 出原賢治, 金地佐千子, 太田昭一郎, 有馬和彦:サイトカインを基盤としたアレルギー疾患の病態解析と臨床検査. 第53回日本臨床検査医学会学術集会. 2006.
 - 22 永沢善三, 中島由佳理, 高柳 恵, 草場耕二, 青木洋介, 楠原久代, 瀧 健治:緑膿菌及び腸球菌に対する炭酸脱水酵素抑制剤の影響について. 第2回日本炭酸脱水酵素研究会. 2006, 9, 16. 第2回日本炭酸脱水酵素研究会学術集会抄録集:5.
 - 23 永沢善三:地域検査ネットワークの構築と活動. 第15回信州臨床検査セミナー. 2006, 10, 22. 第

15回信州臨床検査セミナー講演要旨集：2-3（シンポジウム）。

- 24 永沢善三：学ぼう寄生虫の基礎知識。第41回九州医学検査学会。2006, 10, 22. 第41回九州医学検査学会抄録集：68（ランチョンセミナー）。
- 25 中村光男, 坂口美和, 久米修二, 次富久之, 徳田雄治, 中島のぶよ, 増田正憲, 魚住二郎, 佐藤敏美, 徳永 藏：尿・腹水細胞診で診断しえた尿膜管原発扁平上皮癌の一例。第45回日本臨床細胞学会秋期大会。2006. 11, 10～11. 日本臨床細胞学会雑誌 45：Suppl.2.
- 26 °末岡榮三朗, 宮原正晴, 出 勝, 久富 崇, 桑原伸夫, 福島伯泰, 常吉直子, 船井典子, 佐野雅之：B細胞性非ホジキンリンパ腫に伴う血球貪食症候群における血清インターロイキン18の増加とその意義。第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会。2006, 10, 6-8. 臨床血液 47：229.
- 27 °冨柵りか, 末岡尚子, 佐藤明美, 久富 崇, 小宮一利, 福島伯泰, 船井典子, 出 勝, 桑原伸夫, 常吉直子, 山田恭暉, 末岡榮三朗：成人T細胞白血病・リンパ腫細胞における hnRNP B1 と DNA 依存性キナーゼの会合による DNA 修復機構の抑制。第65回日本癌学会学術総会。2006, 9, 28. 日本癌学会学術総会記事：363.
- 28 °R Tomimasu, N Sueoka, A Satoh, T Hisatomi, K Komiya, N Fukushima, N Funai, N Kuwahara, M Ide, E Sueoka.; Overexpression of hnRNP B1 in adult T-cell leukemia/lymphoma associated with disease progression and stimulation by interleukin-2. American Association for Cancer Research 97th Annual Meeting, April 1-5, 2006, 312.
- 29 °冨柵りか, 末岡尚子, 佐藤明美, 久富 崇, 小宮一利, 福島伯泰, 船井典子, 出 勝, 桑原伸夫, 常吉直子, 山田恭暉, 末岡榮三朗：成人T細胞白血病・リンパ腫における hnRNP B1 発現亢進による DNA 修復機構の抑制。第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会。2006, 10, 6-8. 臨床血液 47：400.
- 30 梅口仁美, 福岡麻美, 青木洋介, 長澤浩平, 永沢善三, 草場耕二, 高柳 恵：リネゾリドが有効であった MRSA による人工弁感染性心内膜炎・脳膿瘍の1例。第76回日本感染症学会西日本地方会総会。2006, 11, 23. プログラム抄録集84.
- 31 山田麻里江, 山田尚友, 南雲文夫, 船井典子：全自動輸血検査システム Auto Vue で検出できなかった低力価の抗 E 抗体の1例。第53回総会・第74回例会日本輸血細胞治療学会九州支部会。2006, 12, 2. 第53回総会・第74回例会日本輸血細胞治療学会九州支部会抄録集：41（一般演題）。

その他の学会等

- 1 °冨柵りか, 末岡尚子, 佐藤明美, 久富 崇, 小宮一利, 出 勝, 福島伯泰, 常吉直子, 船井典子, 末岡榮三朗, 山田恭暉：RNA 結合蛋白質 hnRNP B1 による ATL 細胞における DNA 修復の阻害。2006, 7, 1. 第3回サイトカイン研究会

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額 (千円)
助教授	青木 洋介	平成18年度文部科学省科学研究費	萌芽研究 (分担)	エマージング感染症のための教育用プログラムの開発	交付金 なし
助教授	青木 洋介	国立大学医学部附属病院感染対策協議会		大学病院受診患者におけるバンコマイシン耐性腸球菌の保菌状況の調査(班員)	交付金 なし